

第82回宇宙理学委員会 議事録

日時： 2023年6月12日(月) 15:00~17:30

場所： オンライン開催 (ZOOM)

出席者：

委員：阿部(会中、幹事に指名)、和泉、今田、榎戸、大竹、笠羽、河原(会中、幹事に指名)、
篠原(会中、副委員長に指名)、杉田、住、関(会中、委員長に選出)、関根、関本、田代、
田中、玉川、寺田、鳥海、中川、福家(会中、幹事に指名)、松浦、松本(会中、幹事に
指名)、山口、山崎(敦)、渡辺(伸)、渡邊(誠)

説明者：上野(宗)(理学戦略)、土屋(LAPYUTA)、山村(RG設立申請)

宇宙研：國中所長、藤本副所長、新田理事補佐、佐藤 PD、吉田研究総主幹、青柳科学推進部長、
大井田研究基盤・技術統括

オブザーバ：山崎(典)前副委員長、山田宇宙物理学研究系主幹、齋藤太陽系科学研究系主幹

事務局他：東覚宇宙科学国際調整主幹、加持計画マネージャ、渡辺主任、上田主査、石崎、上
野(史) PO 室長、岸主任、奈良岡主任、東方主査、早川、根本

配布資料：

- 資料0 第82回宇宙理学委員会議事次第
- 資料2 第11期宇宙理学委員会委員リスト
- 資料3 第11期宇宙理学委員会委員一覧
- 資料4-1 理学委員会とは
- 資料4-2 前期からの課題(第10期→第11期引継ぎメモ)
- 資料5-1 第81回宇宙理学委員会 議事録
- 資料5-2 理学委員会 A/I 表
- 資料6-0 GEOTAIL プロジェクト終了審査及び SOLAR-B プロジェクト終了審査兼後期運
用延長審査の結果について(報告)
- 資料6-1-1 【参考】GEOTAIL プロジェクト終了審査
- 資料6-1-2 【参考】答申付属書 GEOTAIL 終了審査 審査委員会報告書
- 資料6-2-1 【参考】答申鑑 ひのでプロジェクト終了・後期運用延長審査
- 資料6-2-2 【参考】答申付属書 ひのでプロジェクト終了・後期運用延長審査報告書
- 資料7-1 2023年度向け搭載機器開発基礎経費審査報告書
- 資料7-2 2023年度理学搭載機器申請 評価まとめ 理学委員会報告
- 資料9-2-1 Research Group 設置申請書(NASA 遠赤外線 Probe ミッション参加検討)
- 資料9-2-2 NASA 遠赤外線 Probe ミッション参加検討リサーチグループ設置申請(説明資料)

資料 10-1 宇宙理学メンバ登録について

資料 10-2 宇宙理学メンバ退会について

<委員長選出まで所長が議長を行う>

1. 所長挨拶

- 委員会の定足数を満たしていることを確認
- 今回から理学委員会の新たな任期が始めるのでよろしくお願ひしたい。ご協力に対し感謝を述べたい
- 宇宙科学を取り巻く状況については今月の理工合同委員会で説明予定

2. 第 11 期宇宙理学委員選出の経緯と自己紹介

- 第 11 期の新委員選出の経緯について山崎前副委員長より説明があった
- 分野等総合的な観点から選出を行った。連続 3 期までとの制約から交代者が多い
- 各委員から自己紹介が行われた

3. 宇宙理学委員長の選出、幹事団の指名

- 委員長候補者について推薦を募ったところ、阿部委員から関委員から適任ではないかとの意見、中川委員から渡邊誠一郎委員が適任ではないかとの意見が述べられた。2 名に意見を求めたところ渡邊委員から関委員が適任だろうとの意見が示され、関委員が受諾し、新委員長に決まった
- 関新委員長から副委員長として篠原委員、幹事として 4 名（阿部委員、河原委員、福家委員、松本委員）の指名が行われ、各自から受諾する旨の意思表示があった

4. オリエンテーションと前期からの課題

1) オリエンテーション

- 山崎前副委員長から資料 4-1 を基に説明が行われた

2) 前期からの課題

- 山崎前副委員長から資料 4-2 を基に説明が行われた

<質疑>

田中委員： RG の位置付けは？

山崎前委員長：資料の中に記載されている通りで、役割や設置手続きは変わっていない

5. 前回議事録および A/I 確認

- 前回議事録（資料 5-1）は（前期委員への）メール回覧済み。委員会中にコメントは無く承認された。
- A/I 表（資料 5-2）の状況が報告された。

6. GEOTAIL プロジェクト終了審査及び SOLAR-B プロジェクト終了審査兼後期運用延長審査の結果について（報告）

- 齋藤太陽系科学研究系主幹から資料 6 に基づいて説明が行われた

7. 2023 年度 搭載機器基礎開発研究費審査結果（報告）

- 阿部審査委員会委員長から資料 7-1, 7-2 に基づいて報告が行われた

〈質疑〉

山田宇宙物理学研究系主幹： 提案件数の減少についての審査委員会の認識は？

阿部委員長： 様々な理由があるだろうが、1)新規申請者が減少傾向であること（常連はいるが）、2)上限 300 万円が高額の基礎開発には不十分かも、3)審査過程での提案者との密な議論が負に働いた可能性、等かと考えている

榎戸委員： 応募検討したが、提案グループに宇宙研メンバを入れる事、との条件を満たせず申請を断念したことがある

阿部委員長： そのような場合には事務局に相談の連絡を行うよう、公募要領には記載してある

田中委員： 惑星科学分野では民生部品の使用することが多く、基礎開発には申請し難い

阿部委員長： 申請者とのより深いコミュニケーションにより開発の中身をより深く理解し、開発要素をくみ取れるようにしたい

8. 2023 年度 戦略的開発研究費（理学）審査（中間報告）

- 上野前審査委員長から説明が行われた
- 今年度は戦略的中型、公募型小型、それぞれ事情があり、審査が遅れている。申請については今年度の新しい委員会を立ち上げて審査を開始し、評価を行っていただきたい。戦略的中型、公募型小型は同一予算なので配分を考えなくてはいけない

〈質疑〉

中川委員： 時限 WG の戦略経費申請については既に審査が進んでいるが、これは前委員会で審査結果を出すことになるのか？

上野前委員長： 審査委員会から時限 WG へ質問を送り回答を待っている状況。前委員会と新委員会の協力の下で迅速に進めたい

渡邊委員： GDI に関係する時限 WG は検討を早期に進める必要があると思うが、いかがか

上野前委員長： WG からの回答（メーカの費用見積もり含む）待ちで時間が経過している。

急ぎ対応したいが要求額が予算を上回っているため、厳しい評価になるかもしれない

渡邊委員： いろいろと事情はあると思うが、早急に審査を進めていただきたい

関委員長： 新旧委員長と幹事団で相談しつつ今期の新たな委員会を早期に立ち上げる。次の委員会まで承認は待てないので、メール審議で手続きを進めたい

9. WG・RG 関係

(1) WG 活動終了について（報告）

- 「惑星科学、生命圏科学、および天文学に向けた紫外線宇宙望遠鏡計画 (LAPYUTA)」は公募型小型への応募が採択されたため、WG 終了する旨、土屋 WG 主査から報告が行われた
- 関委員長： LAPYUTA の内容説明については理工合同委員会で対応が行われると聞いている
- 佐藤 PD： 採択通知の WG への連絡が遅くなったこととお詫びしたい

(2) 新規 RG の設置について (審議)

- 「NASA 遠赤外線 Probe ミッション対応リサーチグループ (仮称)」を設置したい旨、山村宇宙物理学研究系准教授から資料 9-1,9-2 を基に説明が行われた

〈質疑〉

和泉委員： PRIMA と FIRSST の 2 つについて参加可能性を検討とのことだが、途中で 1 つに絞る想定か

山村准教授： そのように考えている。RG の中でも議論していきたい

山田研究系主幹： 2 つのグループに働きかけるような RG だが、米国側から見た時に情報がしっかりと管理されていることは明らかになっているか

山村准教授： コンタクトポイントは独立している。どこに壁を設けているか見えるようにしている

鳥海委員： 中型計画との相乗効果について、2 つのサイエンスのうち 1 つが倒れるとサイエンスが陳腐化するようなことはないか

山村准教授： 2 つの狙いは異なり相補的である。相乗効果を期待している

鳥海委員： 技術的な相乗効果はあるのか

山村准教授： 集中的に取り組むべき課題があり、それを両方に活用する (冷却系技術等)

〈結論〉

NASA 遠赤外線 Probe ミッション対応 RG の設置が承認された。

10. メンバ申請

- 新規申請 3 名について宇宙理学メンバ新規登録が承認された (山崎政彦さんは別途メール審議で承認済み)
- 4 名が理学メンバから退会となった

〈質疑〉

田中委員： 理学委員登録の資格は？

事務局： 理学委員会 HP の記載がある。研究者であること、博士号取得者、2 名の推薦人がいることが条件

11. その他

(1) 事務局から

- 資料掲載サイトはサイボーズ利用。資料取り扱いについては要注意。
- 年内の今後の委員会開催日程については委員長、副委員長、幹事で検討し展開したい

(2) GDI について

中川委員： 太陽系と宇宙物理で異なるが、GDI メンバと理学委員はリンクしている。今期の

GDIメンバをどうするか、この場で決めておくべきではないか。

関委員長： 2つのGDIで統一する必要はないと思う。メンバ選定方針について意見を請いたい。各研究系主幹の意見はどうか？

齋藤太陽系科学研究系主幹： 研究分野が多いので前期は多くの人に入っていただき、理学委員+数名で構成し、4名が取りまとめ役となった。前期メンバと現理学委員が協力してメンバを決めるのがよいのでは。

山田宇宙物理研究系主幹： 前期は準備委員3名で議論し、理学委員会宇宙物理メンバ、宇宙物理学研究系メンバ、コミュニティと連絡がとれるメンバで構成することとした。その多くは今期の理学委員になった。同様な方法をとるのが1案だが、現理学委員の意見も聞きたい

関委員長： これまで同様に研究系主幹がリードし選定を進めてもらうのが良いのではないかと

渡邊委員： 選定をリードする方に対し、理学委員会から明確なメッセージを出すことが大事

今田委員： 理学委員全員がメンバになると当事者意識が薄くなってしまふ恐れがある。チェックを決めてリードするようにしたほうがうまく進みそうである

鳥海委員： 今の意見に賛成。戦略的中型の提案者になるような方はGDIの中での立場が難しい。その意味でも取りまとめ役の役割は重要

山口委員： 宇宙物理GDIは別に理学委員会から指名があったわけではない。時限WGも走っていると、直近のミッションの検討に寄りすぎる恐れもある。より長期的ビジョンをもった議論ができれば良い

榎戸委員： 理学委員会とGDIの違いが外からはよくわからない。ミッション成立性を議論できる人、宇宙研の実情を知っている人にGDIに入ってほしい

関委員長： 両分野のGDIメンバ選定の議論をリードする方を決めたい。相談の結果、次の方々をお願いすることとした

太陽系： 今田さん代表、齋藤太陽系主幹

宇宙物理： 山口さん代表、山田宇宙物理系主幹

メンバ候補が決まったらメール審議で承認のプロセスを行いたい

山田宇宙物理研究系主幹： メンバ正式決定までは現GDIメンバによる活動継続でよいのか？

山口委員： 急がずに、中長期的視点で進めて良いのではないかと

山田宇宙物理研究系主幹： 現時限WGの中には宇宙研執行部との会話が必要な場合があり、その際GDI含め全体での活動が求められる。よって、正式メンバ決定前の活動も重要である

佐藤PD： WG提案については長期計画の中での位置づけ議論があり、そこにはGDIとしての参加が必要になってくる

関委員長： メンバ正式結滞までは前GDIメンバで活動してもらうこととする

12. 議事メモ確認

- 議事メモに記載された内容、A/Iについて全員で確認を行った